

社会科(各教科の概要・授業案)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024620

社会科

<研究主題>

主体性を高める授業過程

<主体性ある人間>

様々な状況や場面において、自己と集団・社会・ものとの関わりを意識しながら、

○自己や集団にとって価値あるものや課題を見付けだす

○自己や集団の取るべき行動を決定し、実践する

○自己や集団の決定や行動を振り返り、評価し、改善する

これらに、継続的に取り組むとともに、自己や集団を高め続けるよう努力する人間

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術

家庭

英語

<教科で育てたい生徒像>

社会に主体的に参加し、よりよい社会を創造しようとする生徒

<教科で身に付けさせたい要素>

〔知識・技能〕【要素A】

- ・地域構成の基本的な枠組みに関する知識・概念
- ・各時代の特色を大観し、関連づけるために必要な知識・概念
- ・現代社会を捉えるために必要な知識・概念
- ・資料を正しく読み取り、作成する技能

〔思考力・判断力・表現力・その他の能力〕【要素B】

- ・問題を発見する力
- ・多面的・多角的に考察する力
- ・資料を収集、選択、活用する力
- ・根拠をもとに考え、表現する力
- ・価値判断し意思決定する力
- ・合意形成する力
- ・振り返る力

〔関心・意欲・態度〕【要素C】

- ・社会事象への関心・意欲
- ・よりよい社会を創造しようとする態度

<教科テーマ>

主体的に社会を創造する生徒を育てる単元開発
～社会の形成に参加する力を育てる授業づくり～

○ 教科テーマ設定の理由

多様な価値観が混在している現代では、子どもを取りまく社会情勢も絶えず変化をしている。社会的事象は相互に関連し、複雑に絡み合って成立しているため、1つの社会的事象や1つの視点のみで物事を見ていては、社会のしくみや事象の関連性は見えてこない。このような変化の激しい時代を生きていく子どもだからこそ、主体的に社会にかかわることが求められる。そこで教科テーマを「主体的に社会を創造する生徒を育てる単元開発」とし、サブテーマを「社会への参加をめざした思考力・判断力・表現力の育成」と設定した。

例えば、現代の社会への参加として、政治参加を見てみる。特に若者の政治への無関心が投票率低下の一因につながっている。その中であって、選挙権が18歳に引き下げられることで、より早い段階で社会への参加が求められるようになる。子どもは投票年齢が18歳になることや選挙の仕組みなどは知っているが、実際にどのようなことが現代社会の課題なのか、それに対してどのような働きかけができるかまでは考えていない。よりよい社会を創造するために、社会とどのように向き合い、学んだ知識をどのように使うことができるかが求められている。他にも、環境の開発や保全、T P Pへの参加や様々な格差に代表されるグローバルな問題から憲法改正、社会保障制度の見直しなど日本が直面している問題、さらには地方創生や地域防災など身近な地域社会の様々な課題などが見られる。

私たちの教える社会科は、そのような世の中の動きを敏感に察知するところから始まる。社会的事象を教材化し、教室と社会をつなぐ授業を実践するなかで、子どもにこれからの社会を生きるために必要な力を身に付けさせたり、社会を創造しようという思いをもたせたりすることができる。今、まさに、社会科の時代が来ていると言っても過言ではない。

しかし、私たちが日々実践する授業は子どもがこのような社会を生き抜き、よりよい未来を形成していくための力を身に付けるようなものになっているだろうか。思考力・判断力・表現力を育む重要性を自覚しながらも、学習内容が増えたので、教科書の事柄を覚えることを優先させている現状があるのではないか。その結果、社会的事象や問題を単に知る授業にとどまり、その背景を熟考し、それに対する自分なりの意見や考えを表現する「主体的に社会を創造する生徒を育てるための授業」までいきついていないのではないか。

これらの問題意識のもと、本校におけるこれまでの成果を生かしながら研究を進め、志を同じくする先生方の社会科授業づくりの一助になればと考えている。

○これまでの取組について

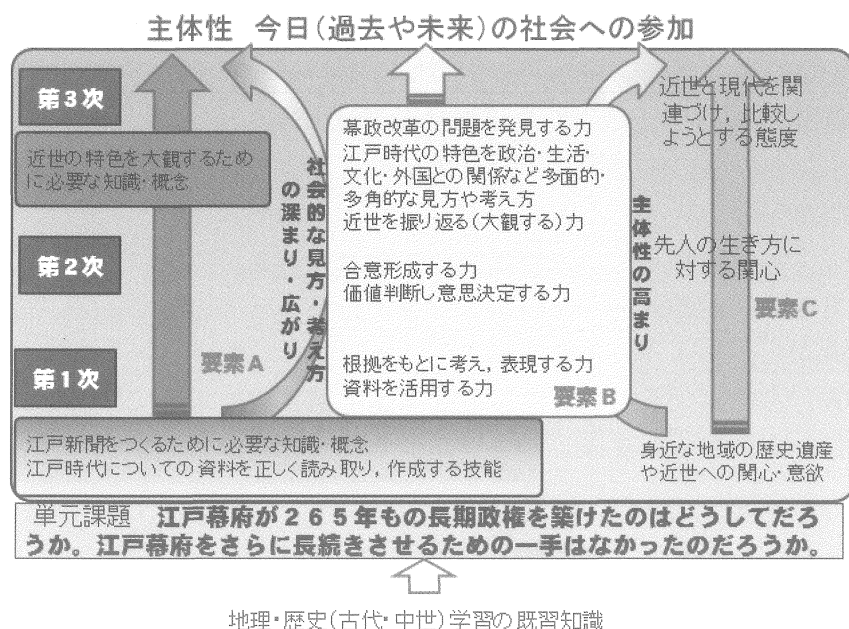
1 研究方法

- (1) 2年生の歴史的分野「産業の発達と幕府政治の動き」、3年生の歴史的分野「現代の日本と世界」の単元に関して、中学校の学習内容を省察して授業実践をおこない、生徒の様子を分析した。
- (2) 単元学習終了後、2年生と3年生に対し学習内容に関する質問紙調査を実施し、生徒の解答結果を分析・考察した。

2 2年生「産業の発達と幕府政治の動き」における授業実践について

(1) 単元計画について

本単元では、江戸の幕政改革を大きく3つの段階（9時間）で実践した。図1は、「産業の発達と幕府政治の動き」を単元構造図として、まとめたものである。



【図1 産業の発達と幕府政治の動き 単元構造図】

第1次は、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどをもとに、町人文化が都市を中心に広がったことを理解した。そのために、身近な地域教材として、東海道や宿場町、大井川などを教材化した。また、江戸時代は農業が急速に発展していったこと、見返り美人図（菱川師宣作）の口紅を教材に「べにばな」がどのような流通経路で生産され、広がったのかなど、貨幣経済の浸透を理解した。都市部を中心に町人文化が広がる一方で、農村部は荒廃し、百姓一揆が増加していることを読み取り、その背景を探るために第2次へつないだ。

第2次は、増加する百姓一揆や打ち壊しを背景に、幕府がどのような政策をおこなったのかを具体的に見た。徳川綱吉の政策から、当時の幕府が目指していた世の中（社会）とはどのようなものかを考える。その後、徳川吉宗、田沼意次、松平定信、水野忠邦などの改革者をジグソー学習で調べることで、幕府・各改革者が目指した世の中（社会）はどのようなものかを考える。政策の羅列にならないようにするために、政策を根拠に資料から目指した世の中（社会）を考えた。各改革者の政策を比較する中で、その違いを明確にした上で、人々（農民・町人）の評価を考え、「江戸幕府をさらに長続きさせるための一手はなかったのだろうか」を追究した。

第3次は、作成した江戸新聞を中心に、単元課題「江戸幕府をさらに長続きさせるための一手はなかったのだろうか」について、各改革者の政策を分類し、単元課題を自分の言葉で表現する活動をおこなった。これらの改革を、「幕府の危機解決に役立ったか、役立たなかったか」と「人々（農民や町人）の生活を良くしたか、悪くしたか」を問うことで、多面的・多角的な見方や考え方から、当時の江戸幕府がどのような世の中を目指したのかを読み解いた。

（2）社会の形成に参加する力を育てる授業づくり

サブテーマ「社会の形成に参加する力を育てる授業づくり」を実践するために、本校社会科部の基盤となっている小集団活動と参加型学習の手法は今後も継続して取り入れていく。その上で、パフォーマンス課題【表1】の位置づけを工夫し、ルーブリック評価を明確にすることによって、思考の可視化を図りたい。今後は、要素C（学ぼうとする力：どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）を育成するために、どのように要素Aで得た「学んだ力」を要素Bの「学ぶ力」に変え要素C「学ぼうとする力」を育成し、よりよい未来を構想するかを検討する。そのためにも、現代ではなく近未来（10～20年後）の社会的課題を学習内容としていかに構成していくかを歴史分野だけに限らず、地理分野や公民分野でも実践を続けたい。

【表1 江戸時代のパフォーマンス課題】

あなたは過去の古代新聞・中世新聞・安土桃山新聞などの実績が認められ、東京都の大江戸博物館からある依頼をされました。それは、武家政権の中でも「江戸幕府が265年もの長期政権を築けたのはどうしてだろうか」調べてほしいという依頼でした。一方で、「さらに長続きさせるための一手はなかったのだろうか」と来館者から聞かれました。調査結果を新聞にまとめて、報告しましょう。

今回の実践では、社会的事象について主体的に調べ、わかろうとして課題を意欲的に追究している授業過程おこなった。例えば、江戸幕府の幕政改革という歴史的事象を主体的に調べるために、生徒を東京都の大江戸博物館の職員として、武家政権の中でも「江戸幕府が265年もの長期政権を築けたのはどうしてだろうか」、「さらに長続きさせるための一手はなかったのだろうか」という課題を単元後半に設定することにより、江戸幕府の様々な改革に着手した改革者に迫ることができた。その結果、多面的・多角的な見方や考え方から、当時の江戸幕府が何を目指したのか、歴史的事象を考察する力が高まった。

（3）生徒の表れから見る成果と課題（アンケート結果より）

単元課題「江戸幕府が265年もの長期政権を築けたのはどうしてだろうか」「さらに長続きさせるための一手はなかったのだろうか」は興味をもって取り組める課題でしたか。

はい 84人 どちらかというとはい 30人 どちらかというといいえ 5人 いいえ 0人

- ・授業では必ず「農民」「幕府」「町人」などの視点で考えることで、江戸時代が立体的に見えるようになり、理解することができたから。また、今の政治はこんなに長く続かないから、そのヒントは江戸時代にあるのではないかと思ったから。
- ・江戸時代におこなわれた政策を調べて、自分の考えに結びつけることができたから。また、同じ改革者を調査した人や、小集団の人とも積極的に話し合えたから。
- ・いろいろな資料を自分で活用、解釈して、毎回ある課題に対して一生懸命取り組めたから。また、元禄・化政文化について学んだ後に、国立博物館に行って、直接見ることができたから。

近世の特色を多面的（政治・生活・文化・外国との関係）に考え、理解することができましたか。

はい 68 人 どちらかというとはい 44 人 どちらかというといいえ 6 人 いいえ 1 人
生徒自身の主観だけではなく、生徒の追究紙を分析し、「要素育成の判断基準」に則り、客観的に考察した結果、以下ようになった。

【要素 B】江戸時代の特色を政治・生活・文化・外国との関係など多面的・多角的な見方や考え方

近世新聞（ポートフォリオ），第 9 時の追究紙		単元前	単元後
4	江戸時代の特色を，幕政改革を通し，政治・生活・文化・外国との関係などの資料から適切に読み取り，既習の時代と比較することで説明することができる。	10	106
3	江戸時代の特色を，幕政改革を通し，政治・生活・文化・外国との関係などの資料から適切に読み取り，いくつかの事象と結びつけて説明することができる。	56	11
2	江戸時代の特色を，幕政改革を通し，政治・生活・文化・外国との関係などの資料から適切に読み取り，1 つの事象と結びつけて説明することができる。	48	2
1	江戸時代の特色を，幕政改革を通し，政治・生活・文化・外国との関係などの資料と関連づけることができない。もしくは，資料の読み取りが浅く，事実のとらえが不明確である。	5	0

① 3，4 つの視点からとらえられている生徒 106 人

〈記述例〉変化が大きい時代だと感じた。古代や中世と比較すると外国との関係が自由ではなくなり，幕府が一括して情報や貿易を独占した状態が続いた。また，貴族から武士へと文化の担い手が変化したのに対して，近世は町人が文化の担い手となり元禄・化政文化を華ひらかせていった。その結果，幕府主導の政治は後半にかけて百姓一揆や打ちこわしなどによって崩壊に向かっていった。あらゆるものが変化し，次の明治につながっていると感じた。

② 2 つの視点からとらえられている生徒 11 人

〈記述例〉身分が固定化され，武士による支配体制が確立した。（幕藩体制）その結果，幕府主導の政治や鎖国がおこなわれ，外国との交易の窓口も制限された。近世は「幕府ファースト」の時代と感じた。

③ 1 つの視点からしかとらえられていない生徒 2 人

〈記述例〉鎖国の影響が，政治・人々の生活・文化などに影響を与えていた。
幕府主導の政治が横行していた。幕府さえよければ良いという改革も多かった。

今回の授業で自分にどのような力が付いたと思いますか。できたと思う力の（ ）内に○を書いてください。（複数可）

- 1 (80) 「近世の特色」を説明するのに必要な知識や概念を理解することができた。
- 2 (103) 今まででは知らなかった新たな「近世の特色」を発見することができた。
- 3 (77) 「近世の特色」を多面的・多角的(複数の立場の視点)に考えることができた。
- 4 (63) 近世に関する様々な資料を活用することができた。
- 5 (51) 近世に関する様々な資料を根拠に，「近世の特色」を説明することができた。
- 6 (87) 歴史（近世）への関心が高まった。
- 7 (39) 近世と現代を比較し，課題を見つけることができた。

- 8 (45) 近世社会の成り立ちを理解し、その解決策などを考えることができた。
- 9 (45) 新聞作りを通して、歴史（近世）に対する考えや思いを、発信する力が身に付いた。

<成果>

生徒のアンケート結果からもわかる通り、プリポストで「江戸時代（近世）の特色」を質問したときに、要素Bの江戸時代の特色を政治・生活・文化・外国との関係など多面的・多角的な見方や考え方ができるようになっていることがわかる。この単元を通して、江戸幕府を多面的・多角的に見るだけではなく、時代を大きく総合的・横断的に見る力が付いている。特に、今まで学習した古代や近世と比較する生徒が多くいた。1つの社会的事象を複数の視点はもちろん、包括的に見ることができつつある。また、知識の定着を図る上でも、今回の実践は公立中学校でも取り入れることができるという意見もあった。また、歴史学習に主体性をもって参加することをどのようにおこなうか、検討していきたい。

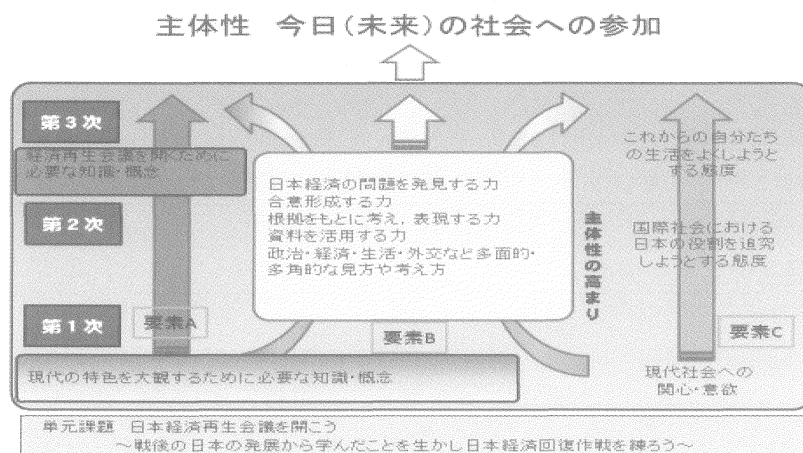
<課題>

歴史学習を進めていく中で、立場の違いに着目し、思考をまとめていく段階から、複数の資料を活用し、思考する主体性（支配者・被支配者など）を変化させることで、当時の時代背景や時代の大きな変化を読み取り、この中に「主体性」を見いだすことができればと考えている。このようなことを踏まえ、パフォーマンス課題やループリックの作成に取り組んでいくことが今後の大きな課題となってくる。

3 3年生「現代の日本と世界」における授業実践について

(1) 単元計画について

本単元では、現代の日本と世界を大きく3つの段階に（7時間）で実践した。図1は、「日本経済再生会議を開こう」を単元構造図として、まとめたものである。



【図2 日本経済再生会議を開こう 単元構造図】

第1次では、1945年9月のアメリカ大使公邸にて撮影されたマッカーサーと昭和天皇の写真をきっかけにして、日本が戦後、どのようにして歩んでいくのか、そして、世界においてどのような立場に日本が置かれていくのかをイメージさせた。また、日本の経済成長率とGDP（国内総生産）の推移をグラフから読み取り、日本が戦後急激に変化していくこと、現在では経済成長率が下降していることをつかませた。戦後の急激な変化を具体的に読み取る方法としては、「戦後の写真」「流行語大賞」の二つを教材として活用し、「戦後」「経済復興期」「高度経済成長期」「低成長期」「バブル崩壊後」に分類させた。この活動により、戦後の日本の変化を大観させ、この第1次で学んだ力（要素A）を第2次で活用させていった。

第2次では、戦後の日本の変化をヒントに、どのような政策・対策をとることで、日本経

済を再生することができるのか（要素A→要素Bへ），具体策を練り上げさせた。この活動の中では，インターネットを活用したり，戦後の日本を知る身近な人（祖父母など）にインタビューをしたりする活動も取り入れた。また，この単元は，現代社会の課題を理解する上で非常に重要な部分であると同時に，現代の日本社会が抱える問題の原点を考える上でも重要となる。幸いにも，この時代を生き抜いた人々が身近にもいる。その戦後の日本の変化を経験した人たちから情報を得ることで，この教材をより身近なものとしてとらえさせていった。

第2次で，経済再生案を練る（調査活動を行う）上で注意すべき点は，視点が広がりすぎ，まとまらないという問題である。そのため，単元課題を追究していく上で柱となる，政治，経済，現代社会の課題，外交の4つの視点を与え，小集団4人の中で，それぞれが一つの役割を担い，調査・追究を進めた。それぞれの専門の役割の知識を深めた上で，経済再生案を練ることで様々な面から追究をすることができると考えた。

第3次では，作成した議案書を基に，「経済再生会議」を開催し，単元課題「戦後の日本の発展から学んだことを活かし日本経済再生案を練ろう～」について，議論を進め，多面的に戦後の日本の歩みを理解し，これからの日本の未来に対する関心を持たせた。

（2）社会の形成に参加する力を育てる授業づくり

以上のように，単元を構成する（第1次：要素A⇒第2次：要素B⇒第3次：要素A・B）ことで，単元を通して，要素C（学ぼうとする力）の育成へとつなげていった。さらに，歴史学習のなかで過去の事例を活用し，「これからの日本を考える（よりよい未来を創りだそうとする）」ことや地理の学習で学んだことを活用することが，公民分野への学習へとつながった。この学習が，自分たちの「未来」を考えるきっかけとなり，今後の社会を形成する重要な一人としての意識を高めていくことにつながったと考える。今後，公民分野の学習を進めていく中でも，「社会の形成に参加する力の育成」を進めていきたい。

【表2 現代の日本と世界のパフォーマンス課題】

あなたは日本を代表する経済学者です。経済産業省の呼びかけのもと，経済再生のための有識者会議に参加をすることになりました。そこであなたは，戦後日本の経済成長を研究し，2017年以降の日本経済再生を目指すことになりました。今までの学習（地理・歴史の学習）を活かし，日本経済再生会議に参加しましょう。その会議で，戦後の日本の発展から学んだことを活かして日本経済再生案を練りましょう。他の経済学者と協力し，これからの日本の未来の経済再生を果たす提言をおこないましょう。

今回の実践では，歴史学習・地理学習で学んだことをいかし，現在の日本の課題を追究・解決していく授業過程をおこなった。現在の日本の課題である「経済再生」を，戦後の日本の発展（政治・経済・現代社会の課題・外交という視点）を生かし考えていくことで，多面的・多角的に考えることができた。また，歴史学習・地理学習から，公民学習への橋渡しとなる学習を進めることができた。

（3）生徒の表れから見る成果と課題（アンケート結果より）

単元課題「日本経済再生会議を開こう～戦後の日本の発展から学んだことを生かして日本経済再生案を練ろう～」を追究する授業は興味をもって取り組める課題でしたか。

- はい 92人 どちらかというとはい 27人 どちらかというといいえ 0人 いいえ 0人
- ・歴史学習の最後の単元を，過去の出来事ととらえるのではなく，今（自分たちに関わる）の出来事としてとらえることができたから。
 - ・現在と過去を比較しながら，自らの考えを膨らませることができたから。また，自分たちの考えにより再生案を練ることができたから。

・「日本をよりよくしていく」ということを意識し、たくさんの視点から物事を考えることができたから。

現代社会の特色を多面的（政治・経済・現代社会の課題・外交）に考えることはできましたか。

- はい 81人 どちらかというとはい 36人 どちらかというといいえ 2人 いいえ0人
- ・現代社会の課題について調査し、それにいたるまでの日本や世界の動きを考えることができた。また、課題の原因となる事柄を理解することができた。
 - ・単元課題を達成するために、追究に積極的に取り組んだり、自らインターネットを活用したりして、調査をすることができたから。
 - ・政治、経済、現代社会の課題、外交のそれぞれの視点を小集団内で分担し理解を深め、それぞれの視点を比較したり、関連させて考えることができたから。特に、外交面についてよく理解することができた。
 - ・新聞やニュースなどを見る時間が増えたから。

【要素B】戦後から現在に至るまでの流れを、政治、経済、現代社会の課題、外交など多面的・多角的な見方や考え方

第2時追究用紙，第3時追究用紙，議案書，ポートフォリオ，経済再生会議	
3	現代の特色を，戦後日本の歴史から経済再生のヒントを追究する活動をとおして，日本の動きを政治，経済，現代社会の課題，外交など多面的，多角的に考察し，公正に判断することができる。
2	現代の特色を，戦後日本の歴史から経済再生のヒントを追究する活動をとおして，日本の動きを政治，経済，現代社会の課題，外交などから考察することができる。
1	現代の特色を，戦後日本の歴史と関連させて考察していない。

① 4つそれぞれの視点からとらえられている生徒 89人

〈記述例〉戦後日本は，憲法制定により政治の仕組を大きく変えた。①財閥解体や②農地改革などの経済の民主化により産業構造が変化した。また，③女性の社会進出や④所得倍增計画などが進められ，急成長を遂げた。さらに，日本の急成長には，日本が国際社会へと復帰し，世界の国々との貿易や世界的なイベントを開催することで，日本国内が整備されていたことも理由として考えられる。その一方，都市部への人口集中や農村部の過疎化が問題となっている。そこで，東京オリンピックをきっかけに都市部の再開発を進めることや②財閥解体を活用し，都市部に集中した大企業を地方へ分散させること。③女性の社会進出のように，外国人の積極活用を進め，地方での農業やハイテク産業の発展を目指す。②農地改革を活用するために，田畑の整備を行ったり，外国人の農業研修生を雇ったり，世界へ和食の良さを発信するきっかけに活用していきたい。

② 1～2つの視点からとらえられている生徒 27人

〈記述例〉今の日本の基礎は，GHQによる民主化政策によってできあがった。民主化が進められたことで，経済発展もしていった。その成長に伴い，社会問題も起きていて，少子高齢化や地球温暖化などが起きている。その課題をプラスに変えていくことが，日本の経済発展につながっていった。産業の発展により日本は成長していった。ITが発達している日本は，技術を活用していくべきだと思う。

③ 戦後の日本の歴史と関連させて考察していない生徒 3人

〈記述例〉今回の単元では，歴史の学習を生かして，今の日本の課題の解決につなげました。今の日本には，少子高齢化や過疎・過密などの問題があります。自分なりに，それらのことに関心を持ち，勉強していきたいです。

今回の単元で自分にどんな力がついたと思いますか。ついたと思う力の（ ）内に○を書いてください。（複数可）

- 1 (58) 現代の特色を説明するのに必要な知識や概念を理解することができた
- 2 (68) 今まででは知らなかった「現代の特色」を発見することができた
- 3 (41) 現代に関する情報を収集し、活用することができた
- 4 (76) 現代に関する情報を根拠に、「経済再生案」を考えることができた
- 5 (85) 現代の課題を見つける・考えることができた
- 6 (71) 日本経済の問題を発見することができた
- 7 (68) 日本経済再生案づくりを通して、社会に対する考えや思いを提案したり、発信したりすることができた
- 8 (77) 歴史（現代）への関心が高まった
- 9 (52) これからの自分たちの生活をよりよくしていきたいと考えた

<成果>

生徒アンケートの結果を見ると、単元を通して、「現代の日本と世界」を多面的・多角的に見たり、考えたりすることができたという生徒が数多くいた。つまり、要素Bの力が育成できたということである。また、日本経済の問題や現代社会の課題を発見したり、現在の社会への関心が高まったりした生徒が多いということがわかる。

この単元を通して、現代の日本と社会を多面的・多角的に見るだけではなく、既習事項を生かし、現代の社会の課題を追究していくことで、自分たち自身の生活へとつなげて考える力が身についたといえる。

歴史分野における最終単元を、歴史学習・地理学習で学んできたことを総合的に活用し、考えることは、大変意義のあるものであったと考える。

<課題>

歴史学習を進めていく上では、過去と現代とを比較することは時代背景を考える上で、ずれが生じてしまうこともある。しかし、時代背景だけに主体を置くのではなく、それらを活用しながら現代を考えていくことやその変化を読み取っていくことで、「主体性」ある学習が進められるのではないかと感じている。

4 今後へ向けて

研究として、今年度の夏季公開授業・研究発表会は「社会に参加する歴史学習のあり方」を探っている。その中で、研究テーマ「主体的に社会を創造する生徒を育てる単元開発～社会の形成に参加する力を育てる授業づくり～」に近づけるために、為政者ではない農民や町人の立場に立った資料の提示が必要になる。各時代を為政者だけではなく、歴史の文脈の中で読み取り、歴史を生徒自身がつくっていく「真正の歴史学習」のあり方を端緒がつかめた。つまり、自分が歴史の主人公、歴史をつくっていく主人公である意識を育てながら、今の生活と歴史を往還し、得た知識を現代社会にどのように生かすことができるか、単元開発の過程で研究していく。